

現代若年層の敬語

—アンケートを手がかりにして—

The usages of realities in honorific by young persons —Report from qeshonnaire survey—

秋山智美
Satomi Akiyama

1. はじめに

本稿はアンケートより、高校生が場面や人物によってどのように敬語を使い分けているのか調査したものである。

2. 調査概要

2-1. 調査の方法とインフォーマント

若年層（高校生）を対象にアンケートを配布し、回答してもらった。調査は、2005年6月から9月にかけて実施した。首都圏（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、茨城県）^(*1)（に所在する公立高校^(*2)に通う現代若年層を対象に調査票を配布し、回収した。配布先は、下記の通りである。配布数は1,180枚で、回収数は1,033枚であった。

表1. 配布数

学校所在地	学校名	配布数	回収数	回収率
東京都	都立東高校	125	110	88%
千葉県	県立野田中央高校	165	144	87%
埼玉県	県立志木高校	240	227	95%
	県立浦和商業高校	130	113	87%
	県立深谷商業高校	130	107	82%
神奈川県	県立川崎北高校	130	102	79%
茨城県	県立A高校	130	96	74%
	県立水海道第一高校	130	119	92%
計		1,180	1,018	86%

性別、年齢、学校名によって語形表現に差異が見られると仮定したため、インフォーマントのグループを次のようにカテゴライズした。各カテゴリーの内訳は以下表2.～表5.に記す。フェイスシートの項目のグラフは3. 調査の結果と考察を参照したい。

(*1) 栃木県、群馬県は調査対象として含めなかった。

(*2) 茨城県の協力校の「県立A高校」は、高校側から学校名については匿名との希望があった。